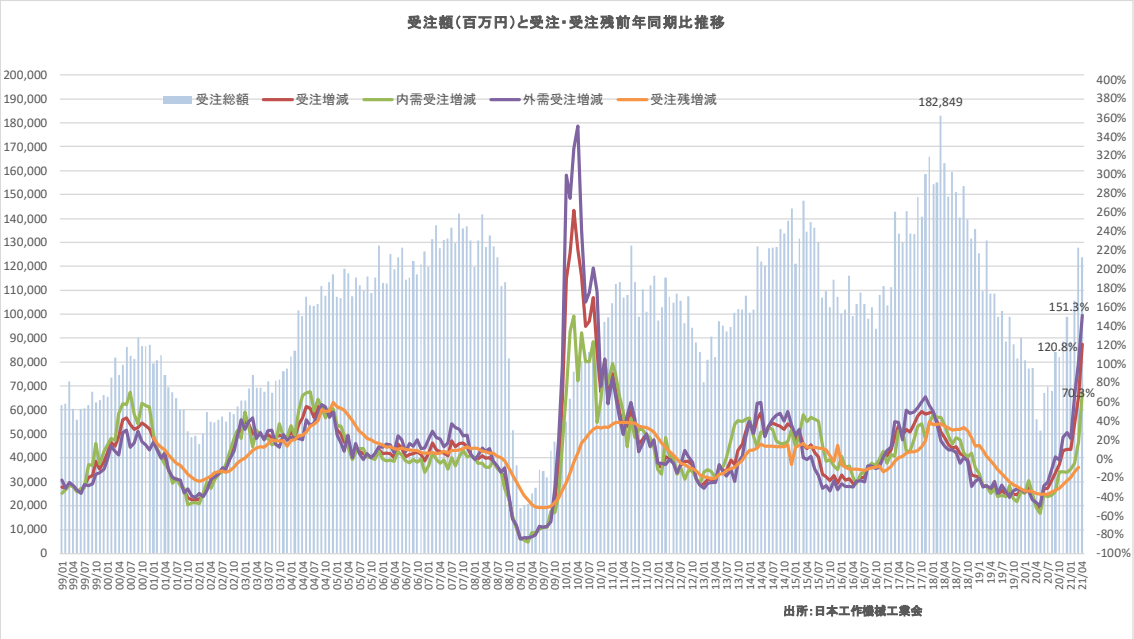
工作機械工業会 4 月受注速報　4 月 1239 億円（2.2 倍）と期末 3 月並みの受注獲得

4 月受注は 2.2 増 1239 億円と期末 3 月並みの受注、外需は 2.5 倍と 18 年 9 月以来の数字

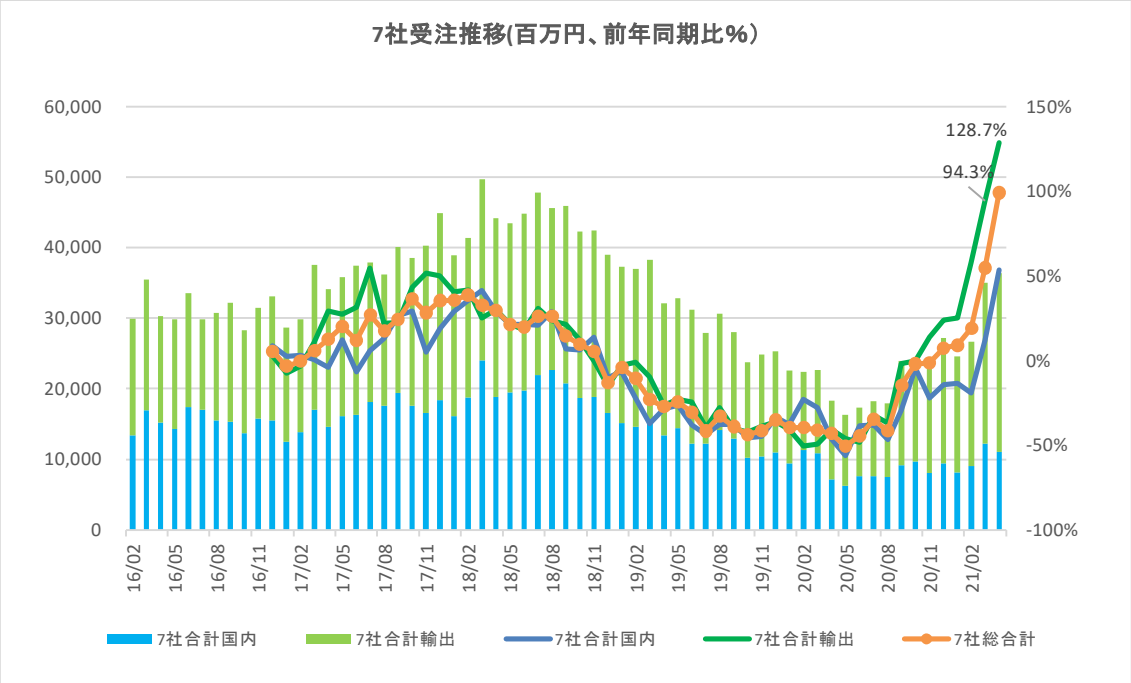
5/17 の 15 時に日本工作機械工業会の 4 月受注速報が開示された。4 月受注は前年同月比 2.2 増の 1239 億円と、6 ヶ月連続で前年同月比プラスとなり、年度末月 3 月と比較しても 3.1%減に止まり、年度初めとして好調な出だしに。なお販売、受注残は 5/25 発表。

内訳は内需が 360.11 億円（70.3%増）で 2 ヶ月連続でプラスとなった。但し 3 月比では 11.1%減となっており、年度初めとしては好調な出だしも、水準的にはコロナ前の 19/4 の 435 億円に対し 17.3%減の水準で、半導体製造装置の様な状況までは至っていない。一方、外需は 879.35 億円（2.5 倍）、前月比でも 0.6%増と拡大、18 年 9 月の 890 億円以来の水準に。ちなみにコロナ前の 19/4 比でも 35.0%増となっており、中国に加え、欧米でも復調している模様。



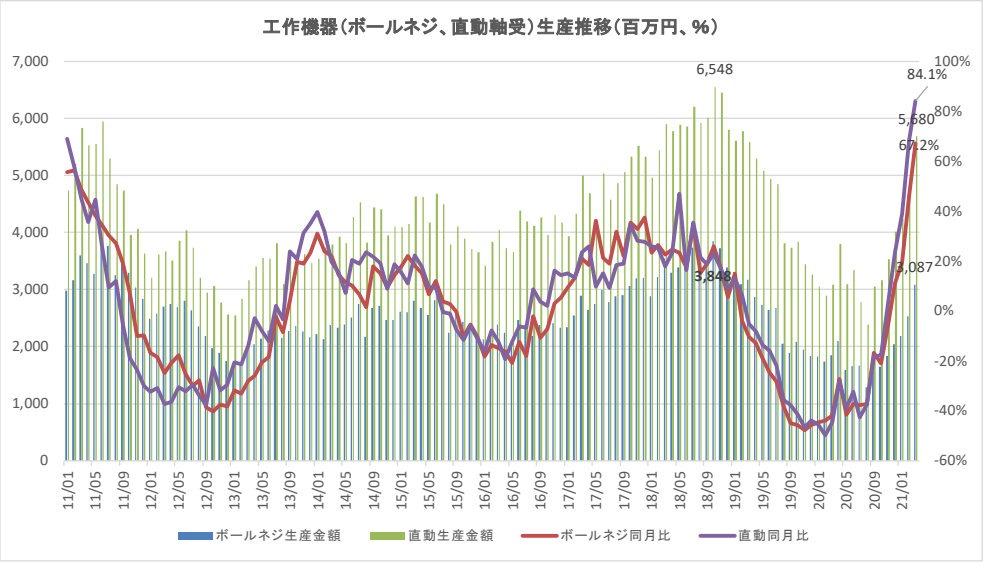
主要 7 社の 4 月受注は 99.1%増 363 億円と 5 ヶ月連続増、2 ヶ月連続全社プラスに

日刊工業新聞がまとめる主要工作機械 7 社の 4 月受注実績（5/17 発表）は 363.34 億円（99.1%増）となり、5 ヶ月連続プラス、7 社全てが 2 ヶ月連続でプラスも、工業会の伸びに対しては依然として下回っている。内訳で輸出が全社プラスで 253.24 億円（2.3 倍）、前月比でも 11.0%増に。個別ではツガミが 98.54 億円（3.0 倍）と、輸出だけで 100 億円大台の一歩手前まで到達している。国内は 110.16 億円（53.4%増）と工業会比で弱い数字で、前月比では 9.6%減、コロナ前の 19/4 比では 17.9%減。個別では牧野 20.6%減、OKK6.8%減と 7 社中 2 社が同月比減、前月比ではツガミ 1.7%増、日本電産傘下となった三菱重工工作機械（今月目処に日本電算に全面譲渡）1.2%増と、7 社中 2 社のみ増加に。個別では、中国主力のツガミ 2.9 倍、三菱重工工作機械 7.5 倍、芝浦機械 3.3 倍など、跛行色がある。

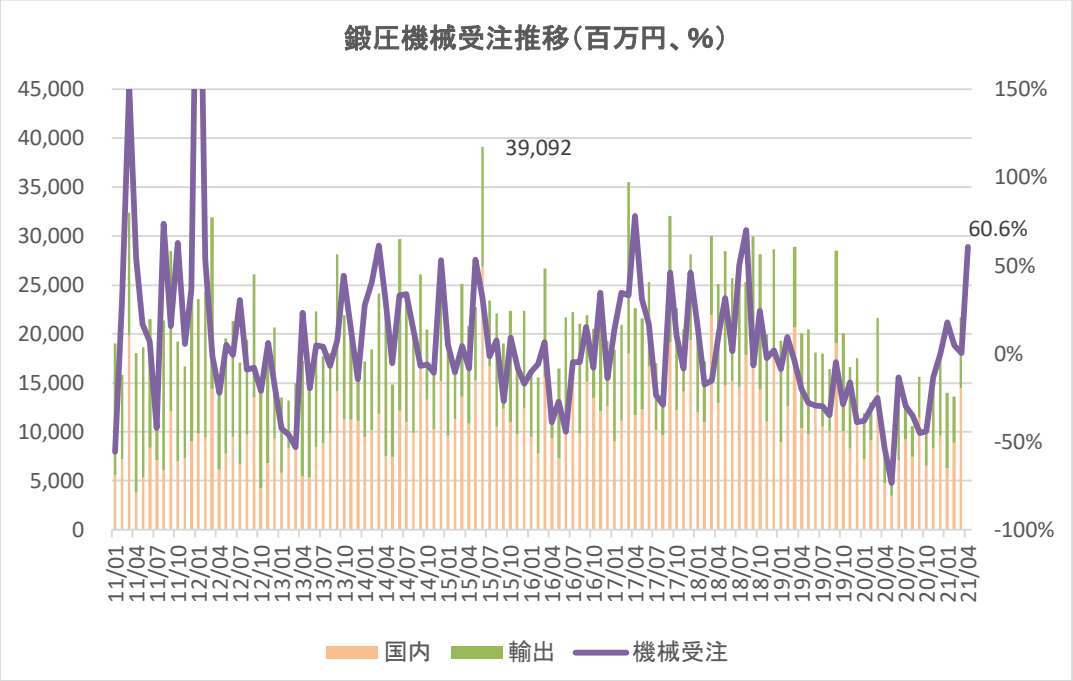


工作機械関連機器の工作機器生産、163 億円（33%増）と 3 か月連続プラス

工作機械に関連する工作機器も、日本工作機器工業会が 5/12 に発表した 21 年 3 月の生産額が 163 億円（33%増）と 3 か月連続増加。主力ボールネジが 4 ヶ月連続プラスで前年同月比 67%増の 30.9 億円、直動軸受 5 ヶ月連続で同月比プラス、84%増の 56.8 億円となった。コロナ前 19/4 比でもボールネジ 2.7%減、直動軸受は 1.7%上回っており、これらの機器は受注急回復の半導体製造装置向けやマテハン搬送などでも利用され、他の工作機器と比較し、いち早く回復、直動主体の THK,日本トムソン、ミニチュアボールねじに強い黒田精工などの受注回復が著しい。



金属加工機械として鍛圧機械受注も 4 ヶ月連続同月比プラス、60.6%増の 149 億円に

工作機械と同じ金属加工機械として、鍛圧機械の受注も漸く回復の数字が出てきた。5/14 に発表された日本鍛圧機械工業会の 4 月鍛圧機械受注は、機械全体で前年同月比 60.6%増の 149.22 億円と 4 ヶ月連続でプラスに。但しコロナ前の 19/4 比較ではまだ 75%水準に止まる。工作機械と比較しては回復テンポが鈍い。

国内は 71.15 億円（48.4%増）と 2 ヶ月連続プラスも、19/4 比では 31.3%減。自動車が 43.8%増、鉄鋼・非鉄金属 25.4%増、その他が 49.3%増など全業種でプラスに。輸出は 78.1 億円（73.5%増）とプラスに転ずる。内訳は北米 7 倍、中国 63.6%増、台湾・韓国向けが 44.5%増なども、欧州向けはマイナスと跛行色がある。機種別内訳はプレス機械が 88.9 億円（65.6%増）と 5 ヶ月連続増、板金機械は 60.3 億円（53.7%増）とプラスに転じた。機種ではパンチング 7 倍と好調な一方、レーザ・プラズマのみ 12.9%減と振るわなかった。